

2012 年 11 月 14 日

2012年度上期業績と年間の見通し

社長 松本 正義

1. 2012年度 上期業績

1. 上期業績サマリー
2. 連結PL
3. 売上高・営業利益の四半期推移
4. セグメント別売上高・営業利益(前年同期比)
5. 営業利益の増減益要因
6. セグメント別売上高・営業利益(年初予想比)
7. 海外売上高比率
8. 光・電子デバイス収益化に向けた対策推進
9. 連結BS

2. 2012年度 下期取り組みと業績予想

1. 年初予想の見直しと下期対策サマリー
2. 中国問題の影響
3. 連結業績予想 (PL)
4. セグメント別売上高・営業利益
5. 四半期・セグメント毎の業績予想
6. 地域別設備投資

7. 研究開発費
8. 研究開発～今後の成長に向けて
9. 営業利益推移

3. 各セグメントの取組み

1. 自動車関連事業
2. 情報通信・システム関連事業
3. エレクトロニクス関連事業
4. 電線・機材・エネルギー関連事業
5. 産業素材関連事業

4. 配当について



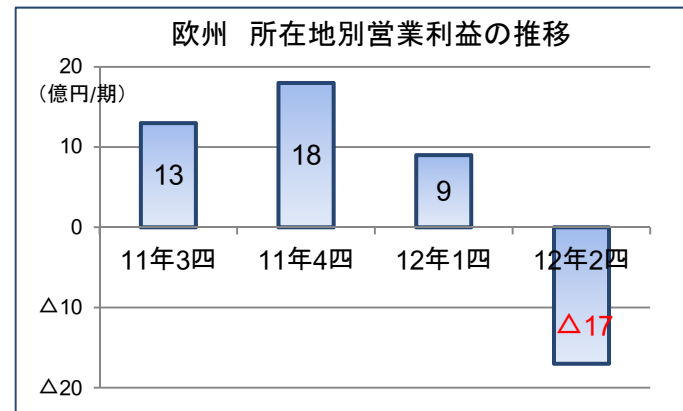
1. 2012年度 上期業績

1-1. 2012年度 上期業績サマリー

FY2012 1st Half Result

✓1四期は、日系カーメーカーのグローバル自動車生産回復や日本でのエコカー補助金効果を背景に、ワイヤーハーネス、防振ゴム、焼結製品など自動車関連製品の需要が増加し堅調な滑り出し。

✓一方、2四期より、新興国市場減速や欧州市場低迷の影響が顕著となり、さらには反日デモの影響もあり、WH、超硬工具などの需要が減速。2四期は季節性から1四期比で改善を見込んでいたが、一転して減益に。



✓好調分野の減速に加え、年初想定(80円/\$,105円/€)を上回る円高の常態化、FPCの新製品の立ち上げ遅れもあり、前年同期比では増収増益を確保するも、年初予想比では減益となった。

こうした中、今後の業績回復・企業体質強化に向け以下を遂行。

- ✓光・電子デバイスのほか、WHの海外拠点でも積極的にリストラを実施。
- ✓円高が進展するなか、海外売上高比率は47.9%(前年同期比+1.1%)と海外市場開拓を推進。
- ✓設備投資746億円(前年同期比+137億円)、研究開発費は464億円(+55億円)を投入。

今後の更なる成長に向けた投入は継続。

1-2. 2012年度上期 連結PL

FY2012 1st Half Result

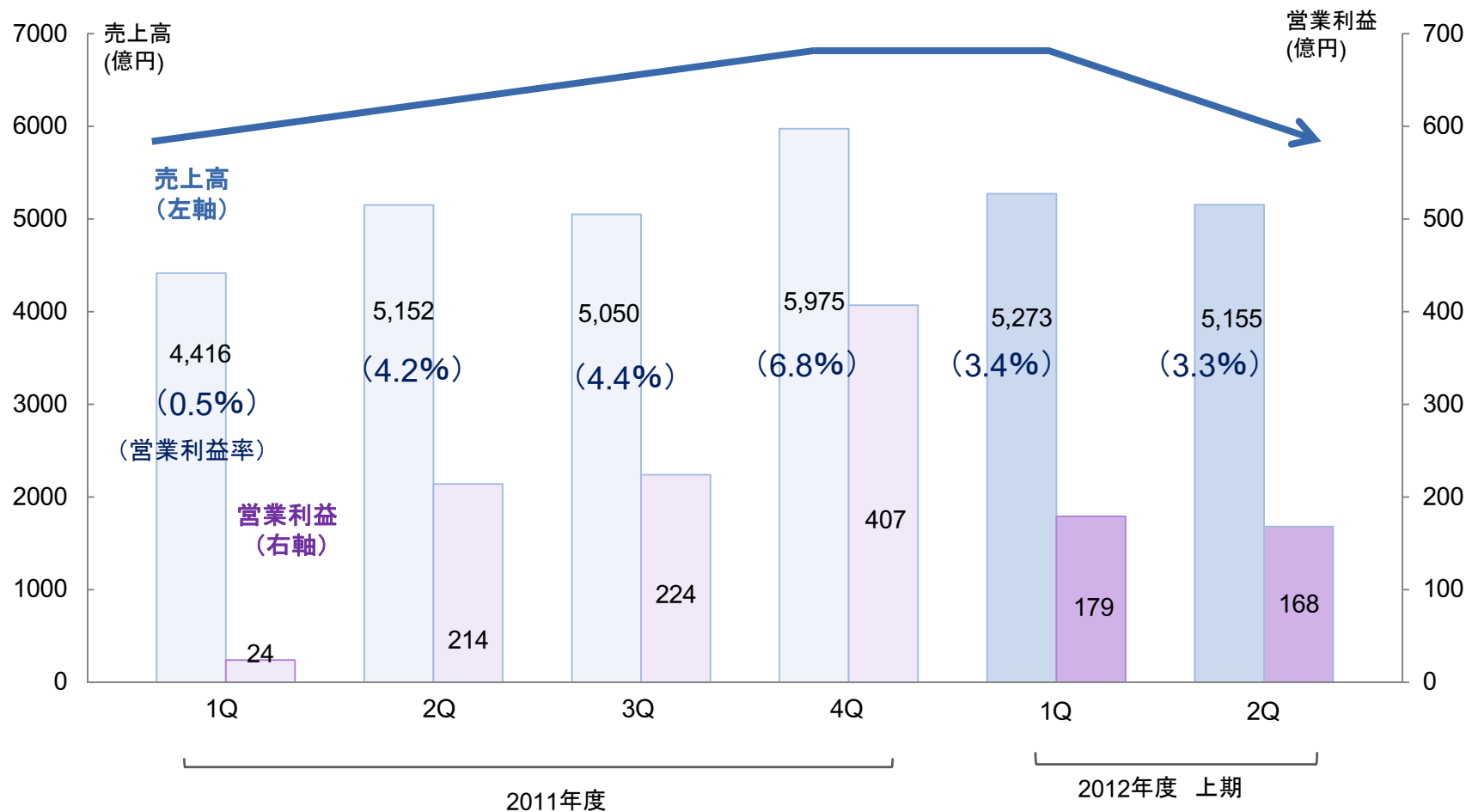
- ・前年同期比では、税前利益まで増益。純利益は、税効果を計上できない子会社（光・電子デバイス、WH欧州子会社）などで事業構造改善を進めたことから純利益は減益。
- ・年初予想比では、2四期の減速や事業構造改善費用などにより減益。

億円	2011年度上期	2012年度上期	2012年度上期	前年同期比	予想比
	実績	年初予想	実績	増減率	増減率
売上高	9,568	10,000	10,428	+9%	+4%
営業利益	238	400	347	+46%	▲13%
持分法損益	90	90	100	—	—
経常利益	356	500	415	+17%	▲17%
災害損失	△53	0	0	—	—
事業構造改善費用	—	—	△62	—	—
その他特別損益	△24	△30	△3	—	—
税前当期純利益	279	470	350	+25%	▲26%
税・少数株主利益等	△88	△190	△192	—	—
当期純利益	191	280	158	▲17%	▲44%



1-3. 売上高・営業利益の四半期推移

- ・震災後、業績は回復基調に推移。1四期迄は季節性を鑑みると順調に推移。
- ・2四期より、欧州・新興国市場減速から自動車・超硬工具などの好調分野が減速したほか、情報通信の低迷も継続し、1四期比で減収減益。



1-4. セグメント別売上高・営業利益(前年同期比)

FY2012 1st Half Result

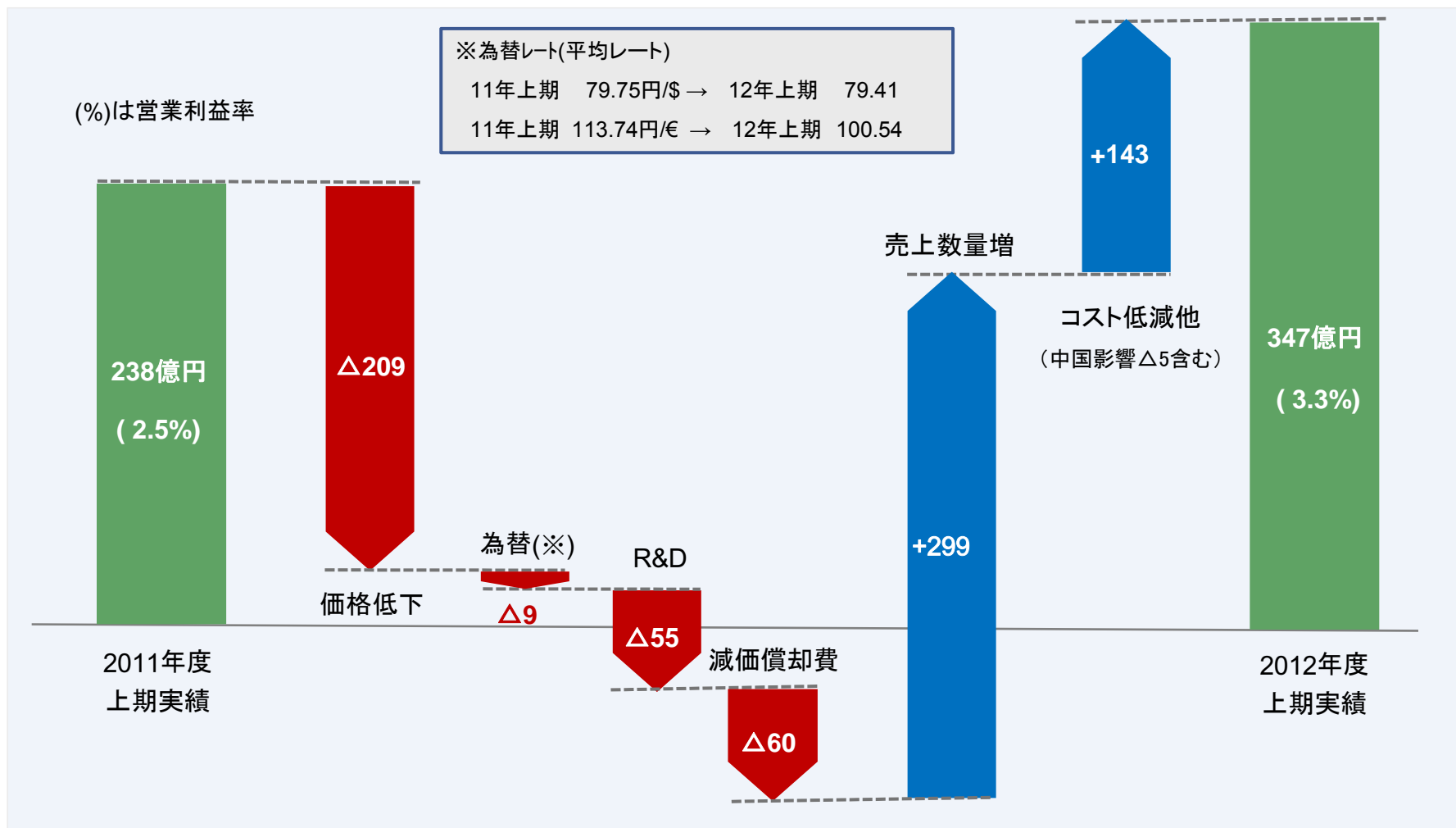
・前年同期は震災影響があったことから、当上半期は増収増益。しかし、セグ別では、情報通信は光・電子デバイスの業績悪化、産業素材は償却費などコスト増やタングステン評価損などから減益。

億円	2011年度 上期						2012年度 上期						差額					
	1四実		2四実		売上高	営業利益	1四実		2四実		売上高	営業利益	1四		2四		売上高	営業利益
	売上高	営業利益	売上高	営業利益			売上高	営業利益	売上高	営業利益			売上高	営業利益	売上高	営業利益		
自動車	1,940	△1	2,573	141	4,513	140	2,744	157	2,566	129	5,310	286	+804	+158	△7	△12	+797	+146
情報通信	372	△22	391	△20	763	△42	345	△42	388	△36	733	△78	△27	△20	△3	△16	△30	△36
エレクトロニクス	416	△3	445	3	861	0	471	0	520	10	991	10	+55	+3	+75	+7	+130	+10
電線・機材・エネルギー	1,171	13	1,211	35	2,382	48	1,189	24	1,173	34	2,362	58	+18	+11	△38	△1	△20	+10
産業素材他	656	37	706	55	1,362	92	691	40	684	33	1,375	73	+35	+3	△22	△22	+13	△19
消去	△139	0	△174	0	△313	0	△167	0	△176	△2	△343	△2	△28	+0	△2	△2	△30	△2
合計	4,416	24	5,152	214	9,568	238	5,273	179	5,155	168	10,428	347	+857	+155	+3	△46	+860	+109

1-5. 営業利益の増減益要因 (2011年上期～2012年上期)

FY2012 1st Half Result

- ・前年同期は震災影響があったが、当期は日系カーメーカーの生産増などを背景に売上数量が大幅増加。
- ・一方、値引き影響のほか、減価償却費・研究開発費などの負担増により、営業利益は前年同期比109億円増加の347億円。



1-6.セグメント別売上高・営業利益(年初予想比)

FY2012 1st Half Result

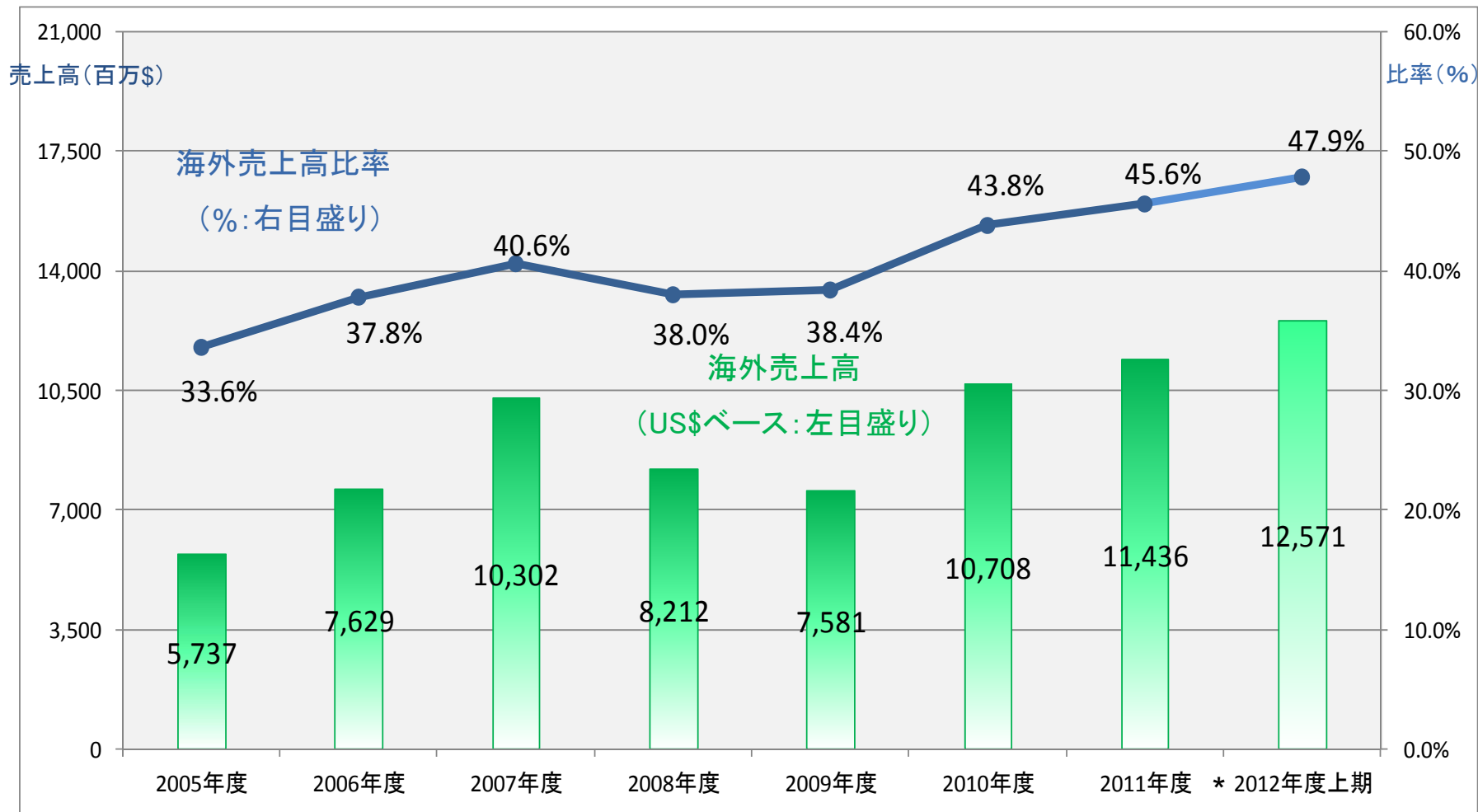
・2四期より、自動車・産業素材などの好調分野が減速し、年初予想比で営業利益△53億円の未達。セグ別では、自動車、電線・機材・エネルギーは予想値を確保。情報通信は光・電子デバイスの業績悪化、エレクトロニクスはFPCの新製品立ち上げ遅れ、産業素材は、海外市場の減速で年初に見込んだ拡販が未達となり、それぞれ減益となった。

億円	2012年 上期								年初予想比	
	年初予想		1四実績		2四実績		実績		売上高	営業利益
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益		
自動車	5,200	280	2,744	157	2,566	129	5,310	286	+110	+6
情報通信	750	△60	345	△42	388	△36	733	△78	△17	△18
エレクトロニクス	1,050	30	471	0	520	10	991	10	△59	△20
電線・機材・エネルギー	2,250	50	1,189	24	1,173	34	2,362	58	+112	+8
産業素材他	1,450	100	691	40	684	33	1,375	73	△75	△27
消去	△700	0	△167	0	△176	△2	△343	△2	+357	△2
合計	10,000	400	5,273	179	5,155	168	10,428	347	+428	△53



1-7.海外売上高比率

- ・欧州・新興国市場が減速するなかでも、海外売上高は着実に拡大。12年度上期も\$ベースで約10%拡大。
- ・2012年度上期の同比率は47.9%まで上昇。

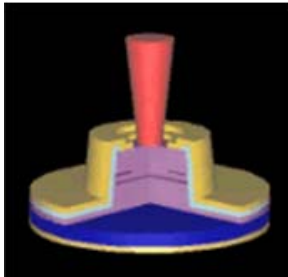


* 2012年上期の売上高は年換算(2倍)

早期収益化に向けたリストラ策の実施

- ▶ 現在、国内5拠点、海外2拠点 → 国内は閉鎖を含め統合・集約、海外生産シフトを加速
 - ▶ 新製品開発テーマの絞り込み、不採算品から撤退
 - ▶ 開発体制見直し、生産効率改善により生ずる余剰人員を他部門へシフト推進
- 上記を踏まえ、本年9月 減損、棚卸評価損など事業構造改善費用 **約40億円**を計上

成長分野への投入・グローバル化推進



VCSEL (Vertical Cavity Surface Emitting Laser)

米国エムコア社
よりVCSEL事業を
買収(2012年5月)

主な用途

- ・Data Center
- ・Super Computer



▲SEDV 社外観

本年4月より、ベトナム工場を本格稼働
生産シフトを加速し、円高対応・コスト低減を進める

下期業績見通し

光・電子デバイスは、上期は大きな赤字も、下期は若干の黒字化の見込み

[売上高] (12年上 181億円→下 206億円)

- ・電子デバイス…LTE基地局、衛星向け増
- ・光リンク…40/100G増
- ・VCSEL…データセンター向増加

[コスト改善]

- ・スリム化の推進
- ・開発テーマ厳選による開発費負担減

1-9.連結BS

FY2012 1st Half Result

- ・自己資本比率は、株安・円高に伴い その他の包括利益累計額 が減少するも、47.6%と前期末並みを確保。
- ・一方、D/Eレシオは設備投資増加などにより有利子負債が増加し、0.40と0.03ポイント上昇。

	11年3月末 実績	12年3月末 実績	12年9月末 実績
流動資産	9,888	10,474	10,022
固定資産	9,675	10,247	10,413
流動負債	5,310	6,359	5,956
固定負債	3,327	2,973	3,191
(有利子負債)	3,419	3,641	3,884
株主資本	9,669	10,113	10,191
その他の包括利益累計額	△178	△233	△458
少数株主持分・新株予約権	1,435	1,509	1,555
総資産	19,563	20,721	20,435
自己資本比率	48.5%	47.7%	47.6%
D/Eレシオ	0.36	0.37	0.40



2. 2012年度 下期取り組みと業績予想



2-1. 年初予想の見直しと下期対策サマリー

FY2012 1st Half Result

✓ 12年度下期の事業環境は、中国問題に加え、グローバルな景気動向が極めて不透明。現時点でのリスクを織り込み、12年度の営業利益予想を870億円に下方修正。

- 中国の反日行動に伴う日系カーメーカーの自動車販売減少
- 欧州・新興国市場の減速を踏まえ、年初に予想した超硬工具などの拡販計画を見直し
- 光・電子デバイスのリストラを進捗するも、業績回復は年初予想に至らず
- FPCの新製品向けの上期立ち上げ遅れ
- 対ユーロなど、各通貨で進む円高

(年初予想比 営業利益で約△10億円)

通貨	年初予想 (年平均)	今回	
		年平均	内、下期平均
ドル	80.00	79.71	(80.00)
ユーロ	105.00	100.27	(100.00)
元	12.81	12.46	(12.37)
タイバーツ	2.67	2.53	(2.51)

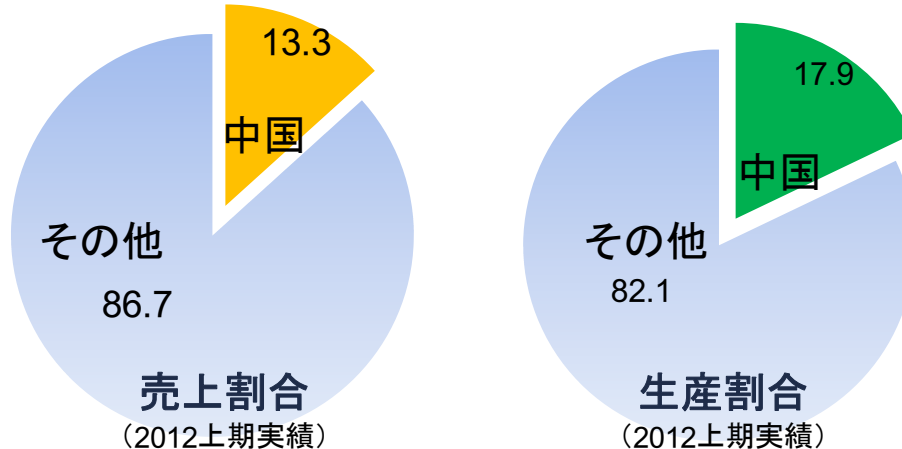
✓ 事業環境は悪化する中でも、成長市場・分野への事業展開は一段と加速。

- 海外売上高比率の一段の増加など、成長市場への販路拡大。
- コスト面ではグローバル生産拠点を活用し、生産最適化による徹底したコスト低減を推進。
- 今後の成長に向けたR&Dは年初予想通りの930億円を予定。12Visionの開発テーマ完遂と次期17Visionに向けた製品開発・事業化を一段と加速。

2-2.中国問題の影響

FY2012 1st Half Result

当社グループの中国売上高、製造割合



当社連結決算(2012上期)では、
 中国向け売上高 13.3%
 中国製造比率 17.9%
 と、中国は、マーケット及び製造拠点
 として、非常に重要な拠点であり、
 存在感を増しつつある。

今回予想への織り込み、中国生産の今後の方針

反日行動の影響は、極めて予測困難。
 日系カーメーカーの自動車販売減少など、
 現時点の顧客情報に基づき織り込み。
 (日系向 10月△50%、11月△40%、12-3月△30%)

営業利益への影響織り込み額

(億円)	上期 (9月)	下期		年間	
		3四期	4四期		
自動車	△5	△53	△34	△87	△92
その他	0	△4	△4	△8	△8
合計	△5	△57	△38	△95	△100

カントリーリスクや賃金等コストアップを考慮し、グローバル生産拠点は東南アジアなどへシフト。
 一方、中国マーケットは依然重要で、地産地消に向けた中国製造拠点での生産・投資は継続。



2-3. 2012年度 連結業績予想(PL)

FY2012 1st Half Result

・売上高を2兆1000億円、営業利益870億円、経常利益1000億円、純利益450億円に下方修正。

為替前提 80円/\$ 100円/€

銅価 建値 650千円/t (LME 7500\$/t)

億円	2011年度	2012年度 年初予想			2012年度 今回予想			前年比	年初予想比
	実績	上期 予想	下期 予想	年間 予想	上期 実績	下期 予想	年間 予想	増減	増減
売上高	20,593	10,000	12,000	22,000	10,428	10,572	21,000	+407	△1,000
営業利益	869	400	700	1,100	347	523	870	+1	△230
持分法損益	205	90	110	200	100	100	200	△5	-
経常利益	1,067	500	800	1,300	415	585	1,000	△67	△300
特別損益	△67	△30	△80	△110	△65	△15	△80	△13	+30
税前当期純利益	1,000	470	720	1,190	350	570	920	△80	△270
税・少数株主利益等	△411	△190	△300	△490	△192	△278	△470	△59	+20
当期純利益	589	280	420	700	158	292	450	△139	△250

2-4.セグメント別売上高・営業利益

FY2012 1st Half Result

・営業利益は年初予想比で△230億円。大まかには、自動車を中心に中国影響△100億円、欧州・新興国市場減速に伴う超硬工具などの年初拡販計画見直し△70億円、光・電子デバイスの回復遅れ・FPCの新製品立上遅れなどにより△60億円。

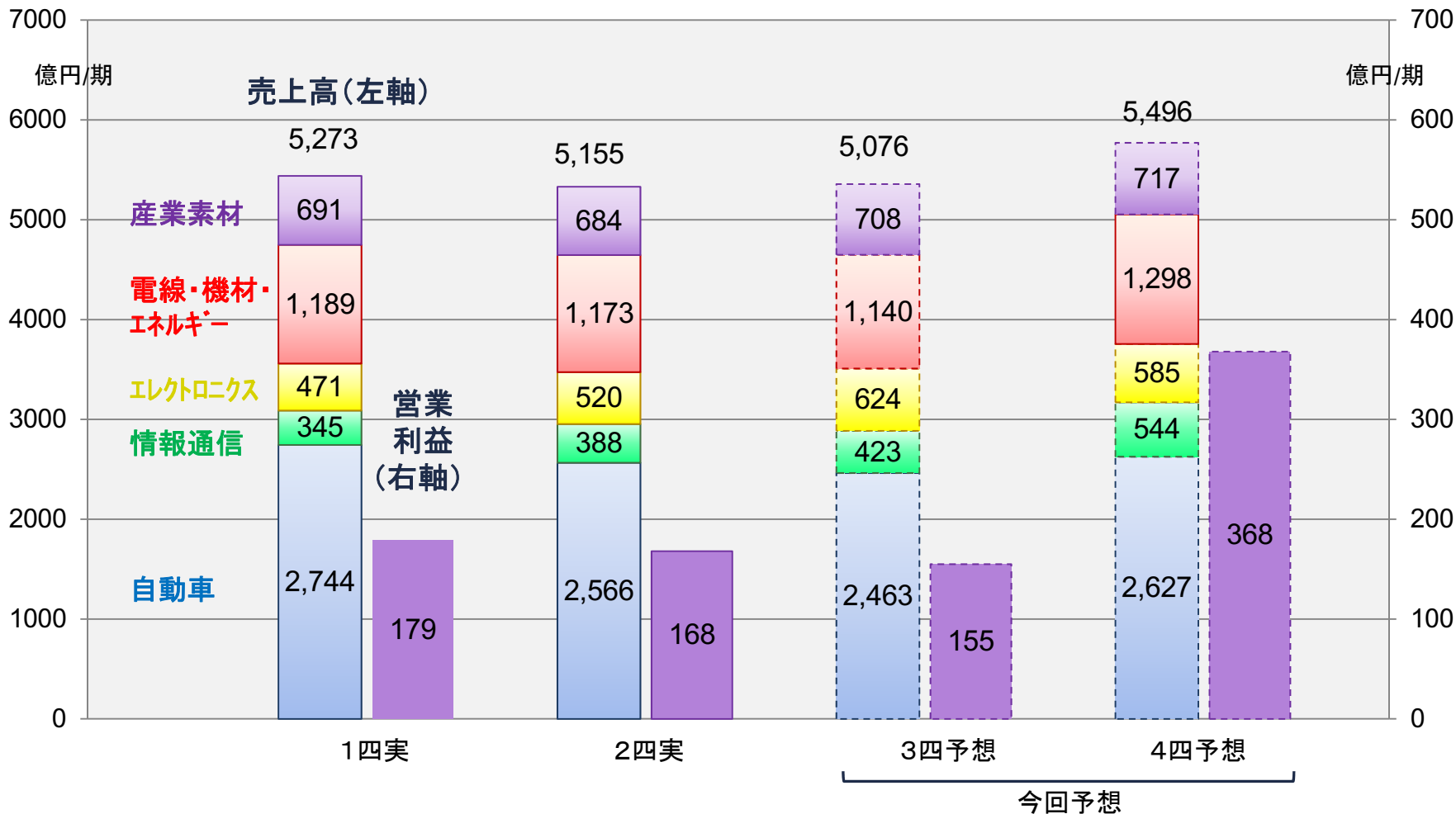
億円	2012年 年初予想						2012年度 今回						差額					
	上期		下期		売上高	営業利益	上期		下期		売上高	営業利益	上期		下期		売上高	営業利益
	売上高	営業利益	売上高	営業利益			売上高	営業利益	売上高	営業利益			売上高	営業利益	売上高	営業利益		
自動車	5,200	280	5,600	330	10,800	610	5,310	286	5,090	249	10,400	535	+110	+6	△510	△81	△400	△75
情報通信	750	△60	1,150	70	1,900	10	733	△78	967	38	1,700	△40	△17	△18	△183	△32	△200	△50
エレクトロニクス	1,050	30	1,350	60	2,400	90	991	10	1,209	45	2,200	55	△59	△20	△141	△15	△200	△35
電線・機材・エネルギー	2,250	50	2,550	120	4,800	170	2,362	58	2,438	102	4,800	160	+112	+8	△112	△18	+0	△10
産業素材他	1,450	100	1,650	130	3,100	230	1,375	73	1,425	87	2,800	160	△75	△27	△225	△43	△300	△70
消去	△700	0	△300	△10	△1,000	△10	△343	△2	△557	2	△900	0	+357	△2	△257	+12	+100	+10
合計	10,000	400	12,000	700	22,000	1100	10,428	347	10,572	523	21,000	870	+428	△53	△1428	△177	△1000	△230

2-5.四半期・セグメント毎の業績予想

FY2012 1st Half Result

・3四期は、FPCの新規案件などエレクトロニクスの増加を見込むも、自動車関連で、中国影響やエコカー補助金打ち切りによる反動減などが色濃くでるため、営業利益は155億円の予想。

・4四期はシステム、工事案件の期末集中など季節性もあり、営業利益は368億円。自動車は引き続き中国・補助金打ち切り影響を織り込むも、3四期比では緩和すると予想。



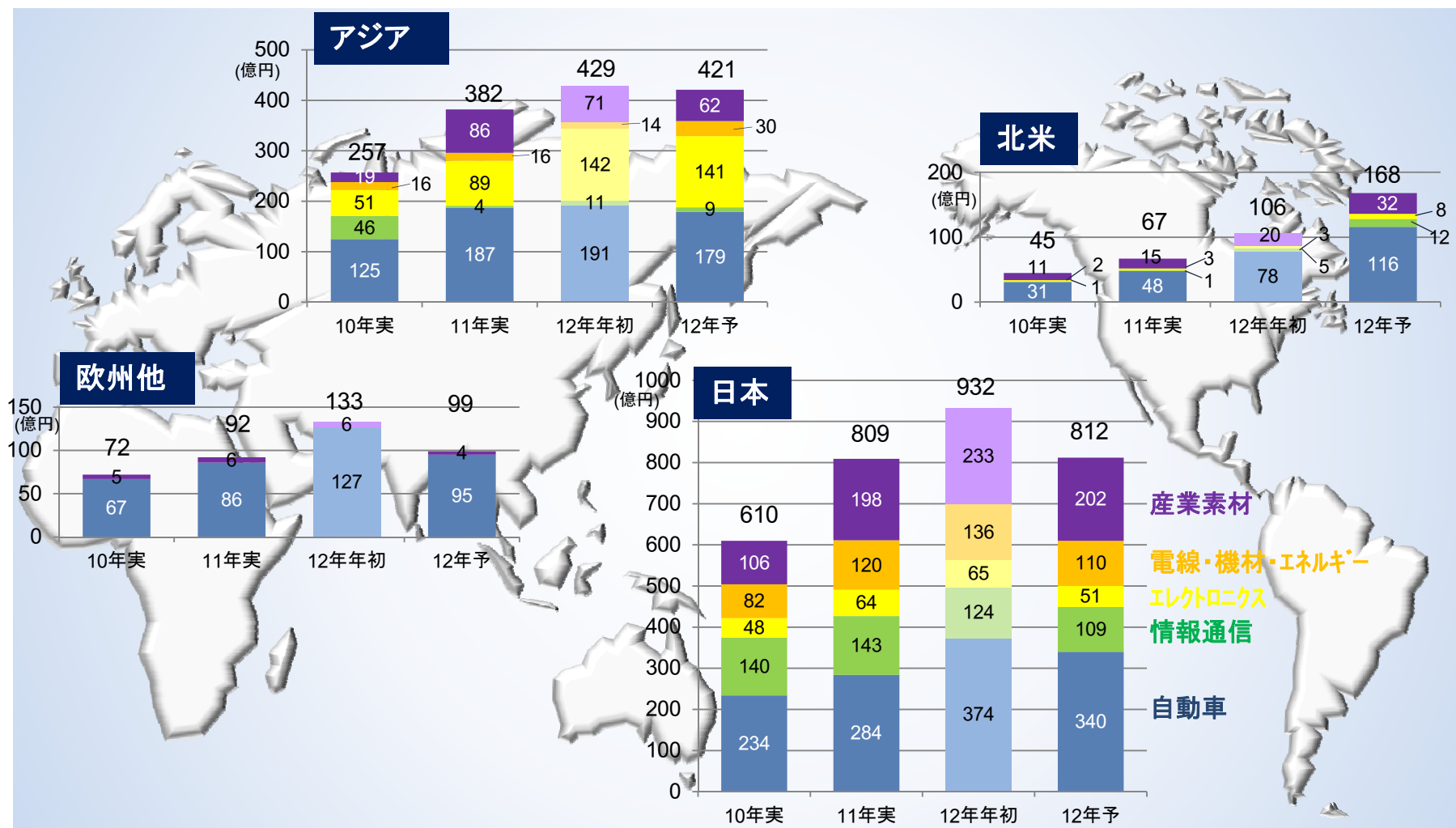
※売上高合計は消去を含む



2-6. 2012年度の地域別設備投資

FY2012 1st Half Result

12年度の設備投資は市場減速を反映し、1,500億円と年初予想比△100億円。セグメント毎では、年初比で産業素材を中心に各セグメントの投資を減額。地域別には、日本、欧州を中心に減額。



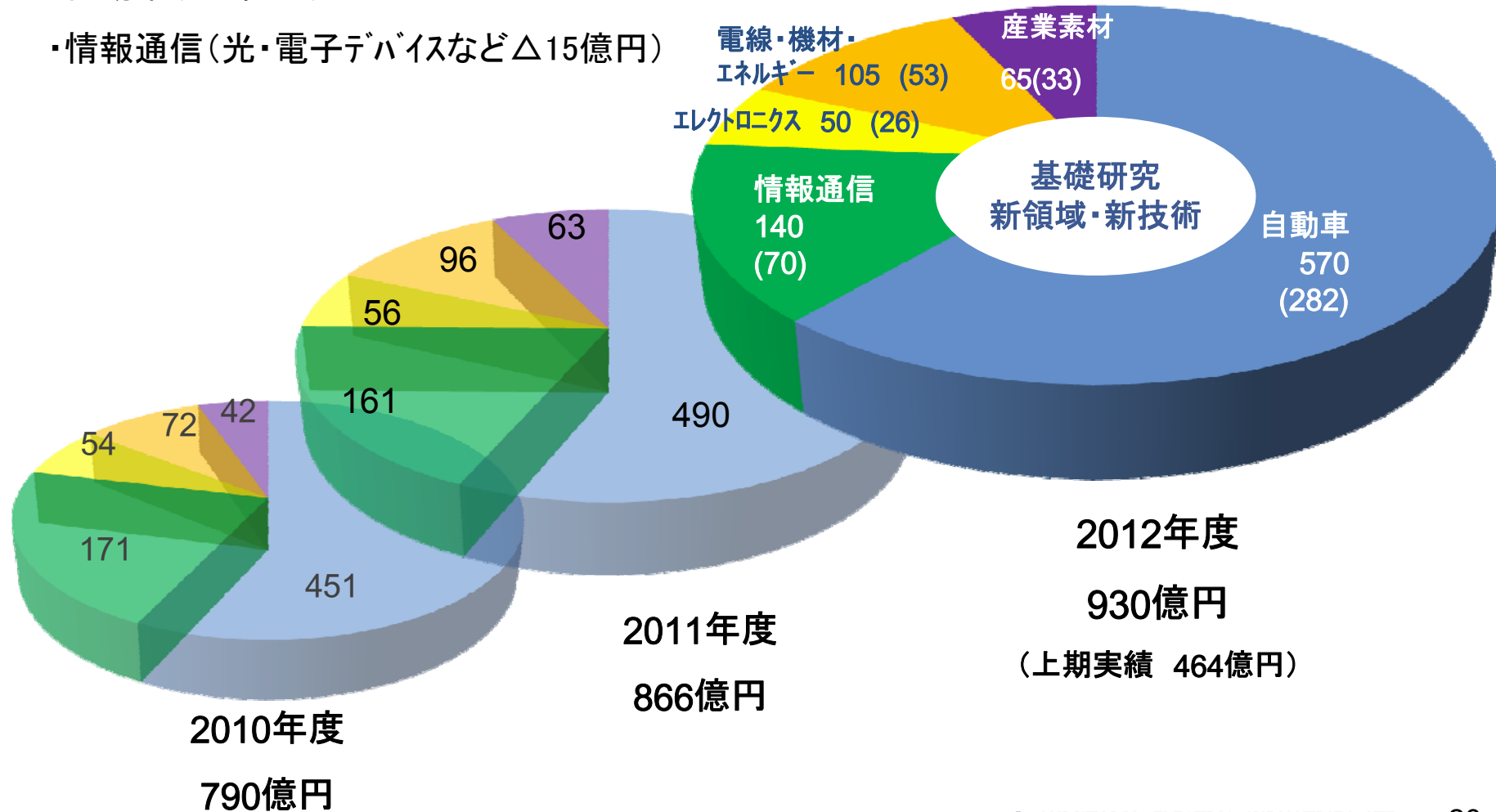
2-7. 2012年度の研究開発費

FY2012 1st Half Result

・今後の成長に向けた研究開発費は、年初予想通り前年比7.4%増の930億円を予定。

ただし、景気悪化局面でテーマ選別を進め、年初予想から内訳は見直し。

- ・自動車(+20億円)
- ・情報通信(光・電子デバイスなど△15億円)



2-8.研究開発 ～今後の成長に向けて～

FY2012 1st Half Result



環境自動車向け部品



ナノ多結晶ダイヤモンド
CBN-セラミックス新材料
粉末磁性材料

革新的低環境負荷型素材・
システム技術へのチャレンジ
超電導線材・モータ・コイル



レドックスフロー電池



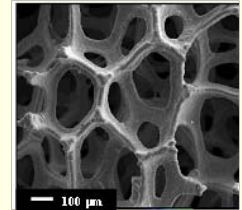
リアクトル

次世代安全・環境
自動車に向けた
イノベーション
ハーネス軽量化技術
電源駆動系システム
給電システム

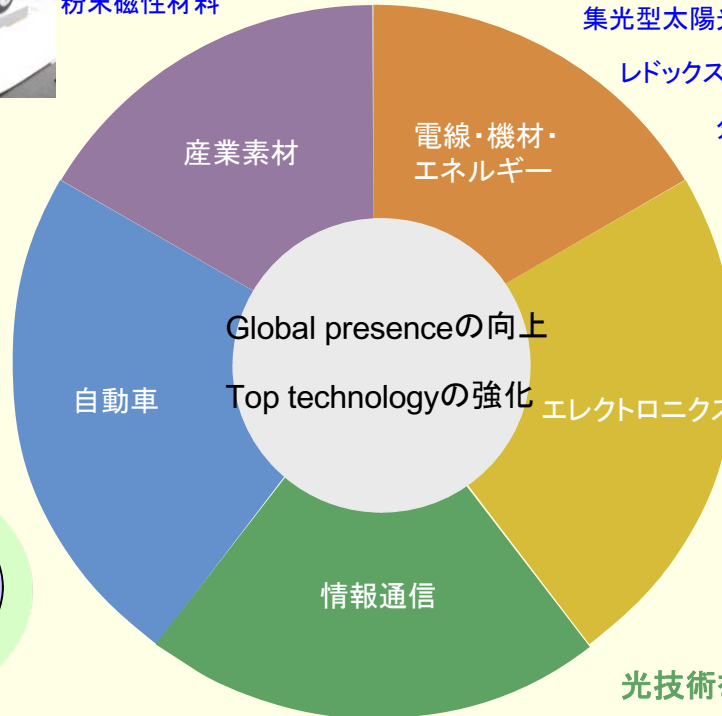
集光型太陽光発電装置
レドックスフロー電池

分散電力システム

水処理、バラスト水処理装置
溶融塩電池、アルミセルメット
発電デバイス、ナノ接続技術



アルミセルメット

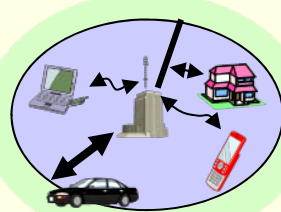


環境・資源に優しい
材料イノベーション

緑色半導体レーザ
パワーデバイス
Mg合金



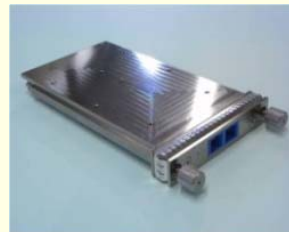
AZ91マグネシウム合金
ノートパソコン筐体



移動通信網

次世代光通信事業への展開

光分岐ネットワーク (PON)
次世代伝送技術
(40G・100Gbit/s)
次世代光ファイバー
(幹線100Gbit/s/ch超)



大容量高速光トランシーバ

光技術を活用した
新事業の創出

近赤外光による
組成イメージングシステム
高速情報配線(Thunderbolt)



Thunderbolt 光ケーブル



高効率無線
増幅器

無線ブロードバンド
アクセス事業への展開

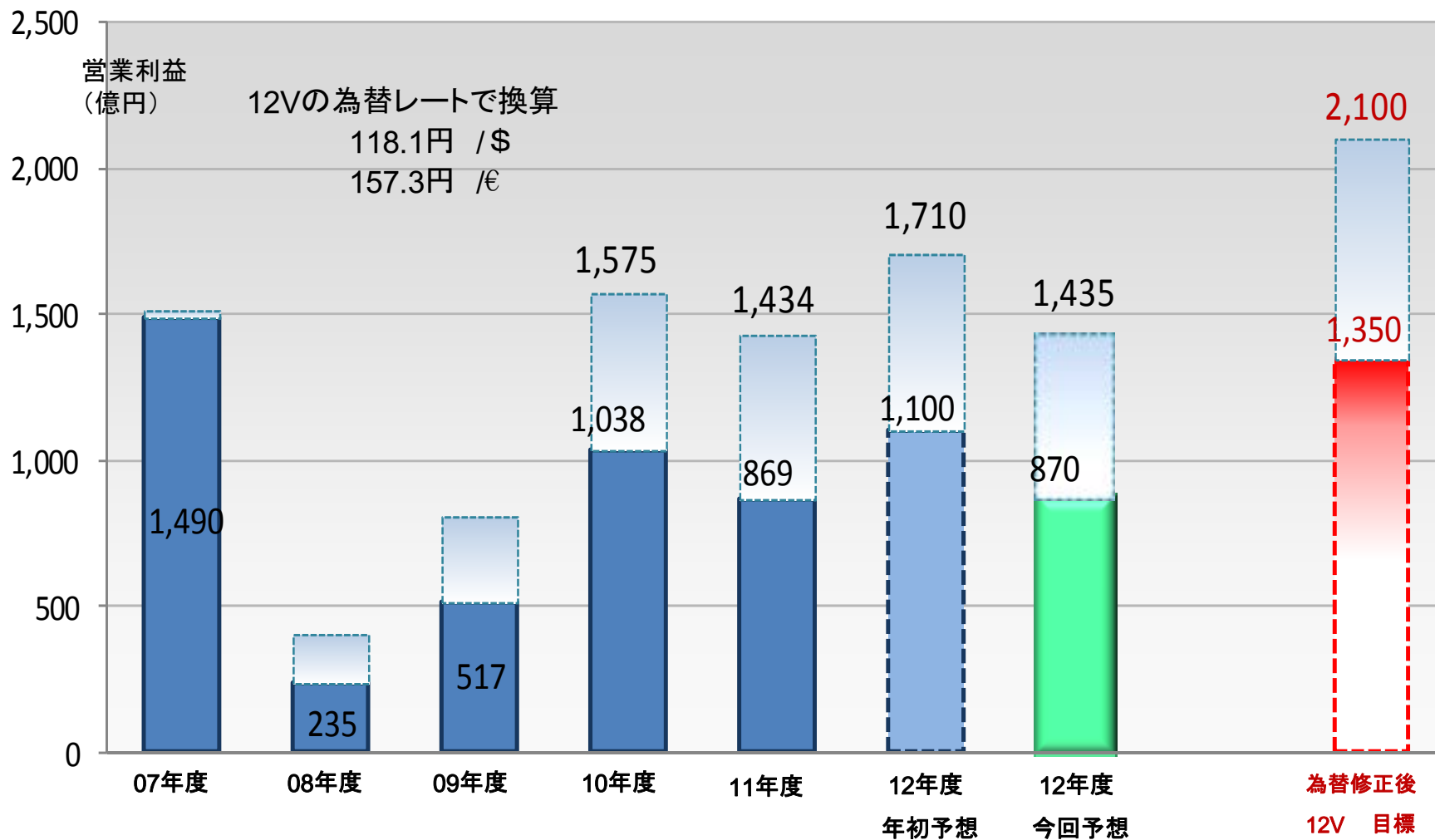
携帯基地局無線ユニット
GaN HEMTデバイス
ミリ波帯集積回路(MMIC)



2-9. 営業利益推移

FY2012 1st Half Result

- ・ 12年度の営業利益は870億円に下方修正。12Vision立案時のレートで換算すると1400億円強の水準。為替修正後12V目標（1,350億円）の達成は困難だが、少しでも近づくべくグループを挙げて邁進する。

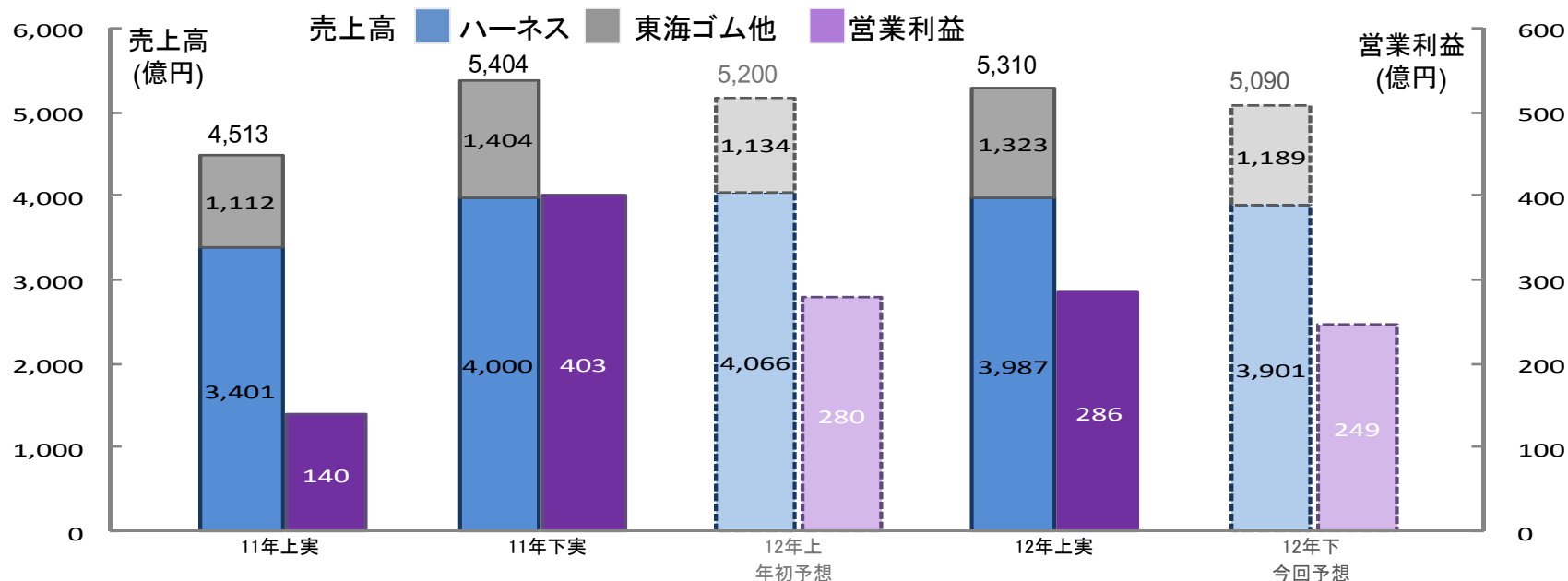




3. 各セグメントの取組み



3-1. 自動車関連事業



2012年度 上期実績

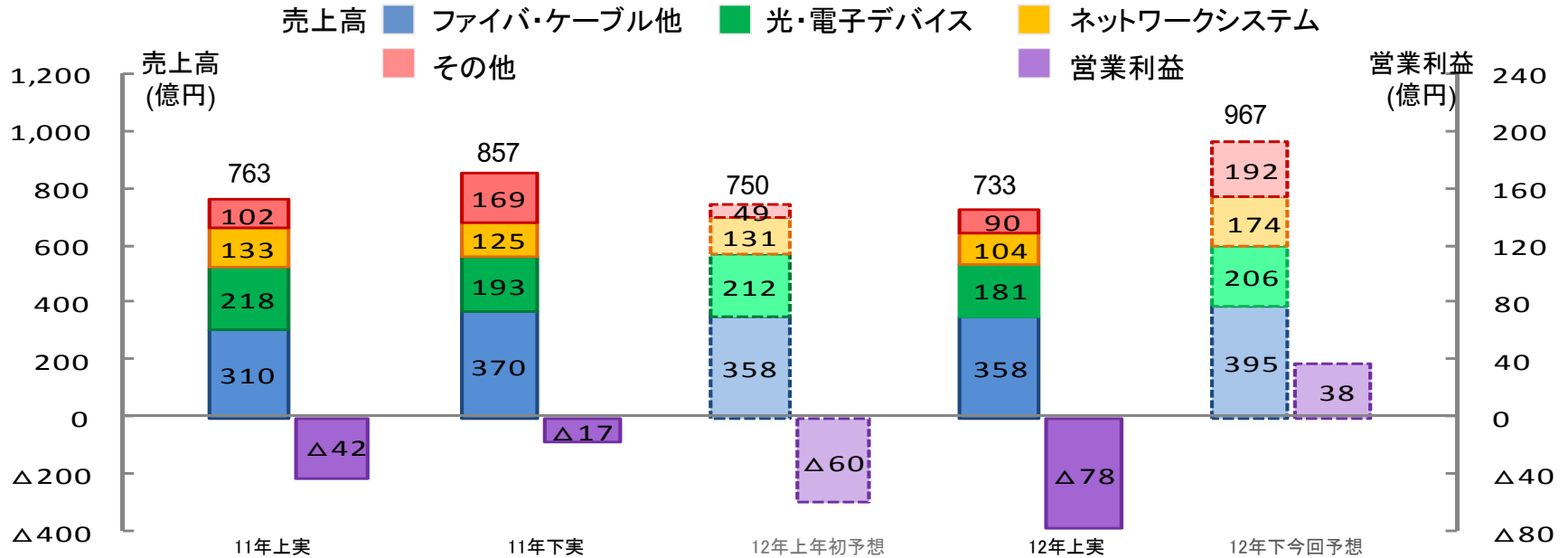
- 震災影響のあった前年同期から転じて、日系カーメーカーの生産拡大や日本でのエコカー補助金を背景に、売上数量が増大し増収増益。
- 年初予想比では、1四期は堅調に推移したものの、2四期から欧州・新興国の減速が鮮明となったうえ、中国の反日行動の影響もあり、若干の増益にとどまった。
- グローバル生産対応への設備投資 341億円、今後の新製品に向けた研究開発費 282億円を実施。

下期の課題

- 中国影響のほか、エコカー補助金打ち切りの影響を織り込み、前年同期、上期比で減収減益の予想。
- 欧州カーメーカーなどへのシェア拡大取組み強化。
- グローバル生産最適化
 - ・ 東南アジアのWH生産増強と中国集中の回避、コスト低減
 - ・ 北米向けメキシコ拠点増強
- 環境対応車向け製品(高圧・アルミ/光ハーネス)の開発促進

3-2. 情報通信・システム関連事業

FY2012 1st Half Result



2012年度 上期実績

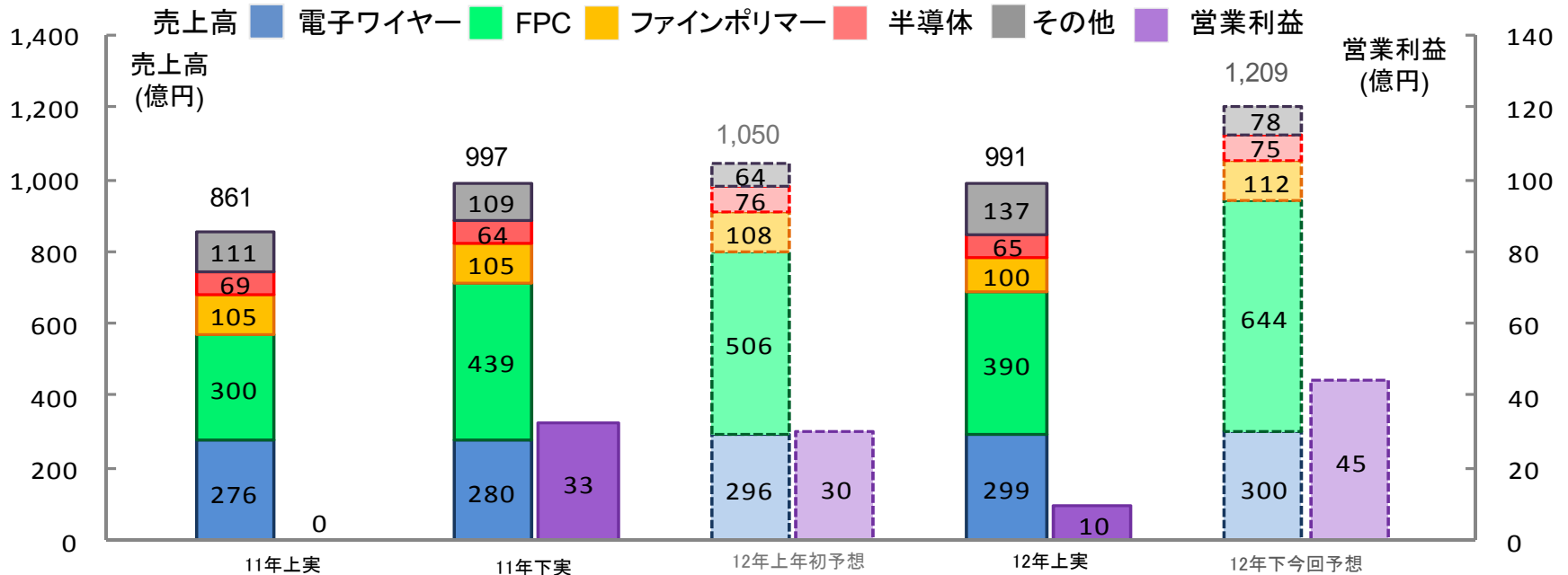
- 前年同期比では、海外を中心に光ファイバ・ケーブル、光機器の需要は増加したものの、光・電子デバイスの減収減益が大きく、営業利益は△36億円悪化。
- 年初予想比では、光・電子デバイスの悪化が大きく△18億円の減益。
- 光・電子デバイス：開発テーマの厳選や、減損・棚卸評価損など事業構造改善費用(40億円)計上などリストラ推進。

下期の課題

- 光ファイバ・ケーブル、光機器は、グローバル市場での拡販を推進
- 光・電子デバイス：リストラ効果による早期黒字化
 - ・VCSEL等、成長分野の伸長
 - ・4月本格稼働したベトナム工場への生産シフト・コスト低減推進
 - ・LTE用GaNデバイス、40/100Gbps 光伝送用デバイスの拡販
- ネットワーク機器：北米向けのCATV関連など、海外拡販推進
- 安全運転支援システムなど、新しいITSの開発・拡販

3-3. エレクトロニクス関連事業

FY2012 1st Half Result



2012年度 上期実績

- 前年同期比では、FPCでスマートフォン向けの増加に加え、電子WもThunderboltケーブル(*)が増加し、増収増益を確保。
- 年初予想比では、FPCの新規案件向けの立ち上げが遅れたことや、円高を含む価格競争の激化により採算が悪化し、営業利益は10億円に留まった。
- 電子W: 高速IF (Thunderbolt対応) の製品の拡販開始
- FPC: アジアを中心に生産能力増強

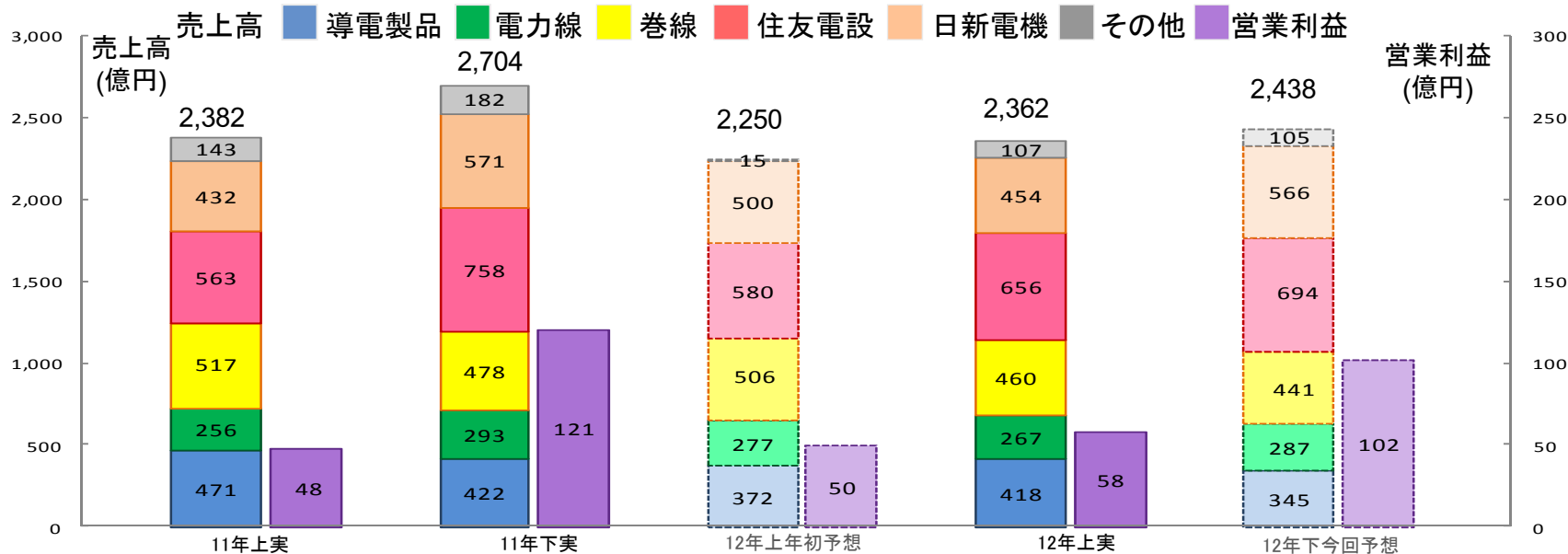
下期の課題

- 電子W: 新製品 (Thunderboltケーブル, 車載タブリード等) の拡販
- FPC: ・スマホ新製品向けの受注・出荷確保
・タブレットPCなど新しいアプリケーション向けの受注
・中国・東南アジアでの生産能力増強と確実な新製品立上
- ファインポリマー: チューブ, 水モジュールの拡販
- 半導体: 白色LED用、グリーンレーザー用GaN基板の開発・拡販
- 他: マグネシウム合金の開発・拡販

* Thunderboltはインテル社の商標

3-4. 電線・機材・エネルギー関連事業

FY2012 1st Half Result



2012年度 上期実績

- 前年同期比では、銅価下落により導電・巻線が減収となったものの、営業利益では、セルメットの需要増や住友電設の業績堅調で、10億円の増益。
- 年初予想比では、住友電設が増収増益となり、営業利益は年初予想比8億円の増益。
- HEV用セルメットの需要堅調。リチウムイオン電池用のアルミキャパシタを明電舎と共同開発。

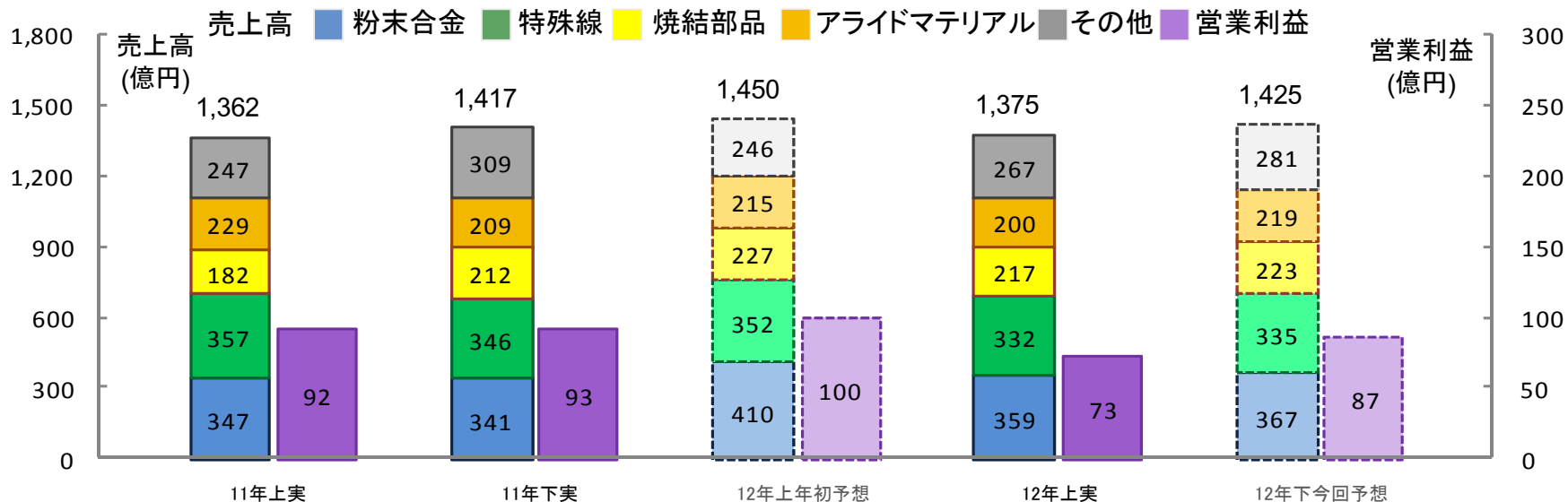
下期の課題

- 需要堅調なアジア市場への導電WRの拡販。
- 産業電線：復興需要・建販向けの受注捕捉
- 巻線：HEV/EV用耐傷性巻線の受注確保・拡販
- JPS:インド、サウジの製造拠点立上と海外需要捕捉
- 再生可能エネルギー関連製品の開発・拡販
- 住友電設の海外電気工事、日新電機のビーム真空応用事業などの好調事業の伸長。



3-5. 産業素材関連事業

FY2012 1st Half Result



2012年度 上期実績

- 前年同期比では、焼結製品やばね線など自動車部品や超硬工具の需要が増加したものの、償却費などコスト増や円高、タングステン等評価損もあり、営業利益は△19億円の減益。
- 年初予想比では、新興国市場の減速に伴い、粉末合金の国内外の拡販が未達となり、エレ分野向けのアライド製品も需要が減少したことから減収減益。
- インドネシアで粉末合金、焼結製品の製造合弁契約を締結。粉末合金は、トルコ、ブラジル、インドネシアに販売拠点を増強。

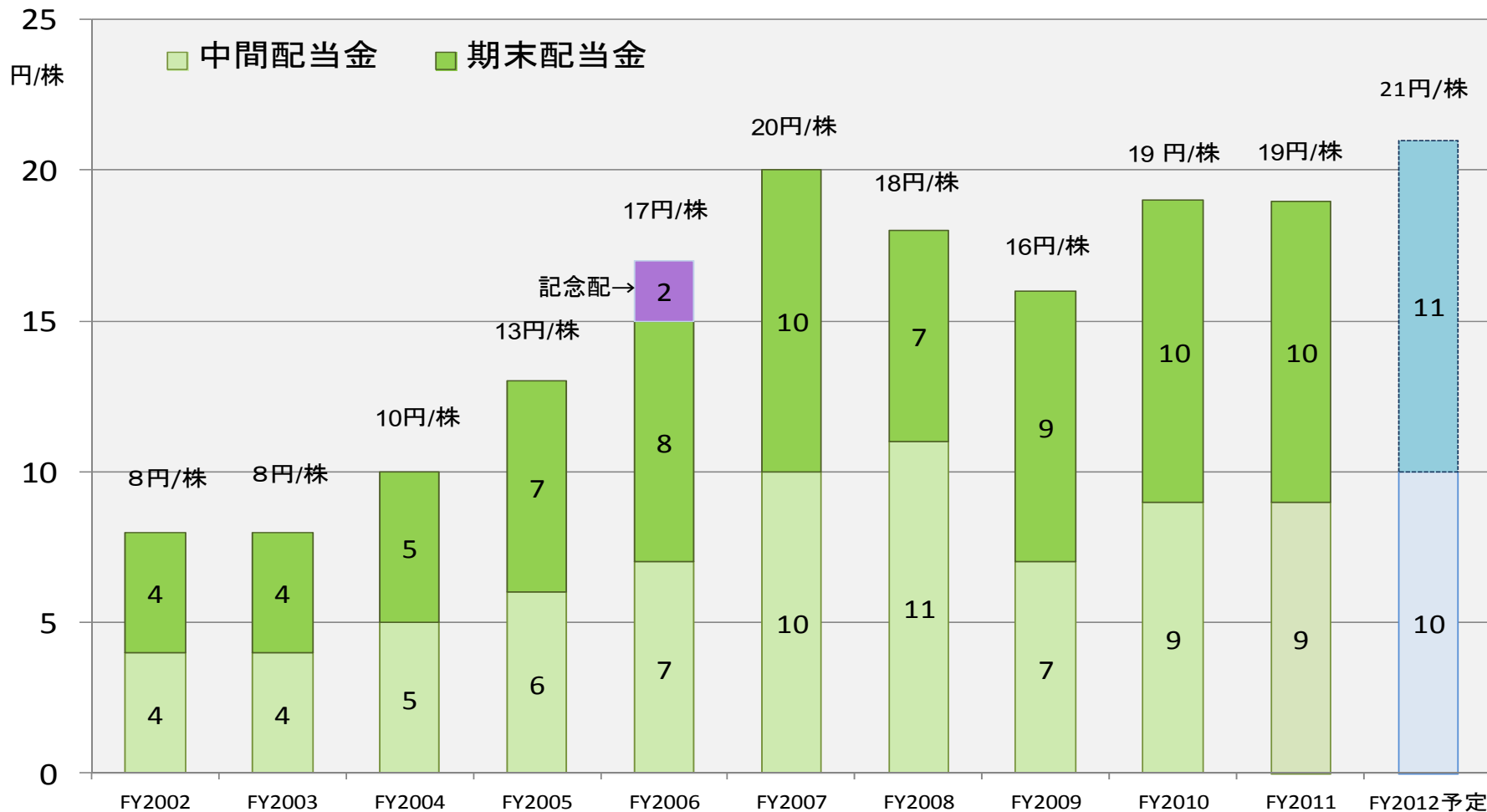
下期の課題

- 粉末合金：・北米・新興国など、海外の営業体制強化、拡販
- 焼結部品：環境対応機器用の開発強化(VVT、CVT等)
- 粉末合金・焼結部品：本年設立したインドネシア製造拠点の円滑な立ち上げ(2013年2月～4月稼働予定)
- アライド：携帯基地局用ヒートシンク、モリブデン製品の拡販
- 粉末合金・アライド：タングステンサイクルの量産確立・拡大
- 特殊線：PCの震災復興需要の受注確保



4.配当について

・2012年度は、年間で2円/株増配、21円/株の配当を予定。



	FY2002	FY2003	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012 予定
1株当たり利益(円)	△26.89	34.29	48.01	76.43	100.22	112.74	21.78	36.19	89.02	74.21	56.73
配当性向	-	23.3%	20.8%	17.0%	17.0%	17.7%	82.6%	44.2%	21.3%	25.6%	37.0%



この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。